

“畑作業が進んでいます!”



昨年から借りている畑に、野菜の苗を植え始めました。時期は雑草が生えてくるので大変ですが、成長が楽しみです。



▼餃子を作りました
みんなで協力して餃子を作りました。作ったことないと言っていた方も段々慣れてきて、上手に皮を包んでいらつやいました。



▼家事作業もみんなで
食事の際の盛付けなど、お互いに役割を持ちながらデイでの活動に取り組んでいます。



▼“こてこ”を作っています
畑など、外の作業をする時にかう“こて”を作って頂いていま



晴耕雨読

[Seiko-udoku]
2021年5月 vol. 28



作業療法士監修

一軒家“まるごと”生活リハビリ型デイサービス



生活リハビリとは？
「ご自宅やデイサービスで、ご自分がしたいこと、できることを見つけ出し、生活動作として毎日繰り返すことで、身体的機能と認知機能の維持・向上を図ります。」
テーブルを拭く、ご飯をよそう、配膳を手伝う、衣服の着脱を自身で行うなど、生活のなかのあらゆる場面で、ご利用者が現在できることは可能な限りご自身で行っていただきます。また、少しだけ頑張っていたり選択プログラムも「留意して」おります。そのことが、生活の質の維持・向上につながるかと考えるからです。さらに、ケアスタ中町では、お一人おひとりのご利用者の心に潜んでいる「してみたいこと」を一緒に探出し、そのことが実現できるようにサポートいたします。
□様々なプログラムがありますので、集団になじめない方でも対応できます。また、これまでの生活習慣を変えないように、料理や掃除、社会参加プログラムも「留意して」しております。

認知症の人は、なじみの生パン作り、パイキング、コーヒータン、ノルディックウオーキングなど、紙面上では紹介しきれないプログラムを多数ご用意しております。それぞれのプログラムに目的と効果を設定して、プログラムを行う事で日常生活動作の訓練を楽しみながら行う事ができます。

20種類以上の 選択プログラム

「なじみの作業記憶」を活用
認知症の人は、なじみのない行動は苦手です。目的や手順を説明されても理解が難しかったり、忘れてしまったりして、混乱・困惑し、時にはやらされていることへの怒りを感じることもあるでしょう。一方、積み重ねてきた作業を体が覚えていてくれることがあります。認知症の人は、そうした「体が覚えたこと」「なじみの作業」は、失われにくい傾向があり、生活リハビリではまさにその人のなじみの作業を行います。慣れた行動、わかりやすい目的のため、前述のような感情にとらわれずすすみます。



畑・園芸



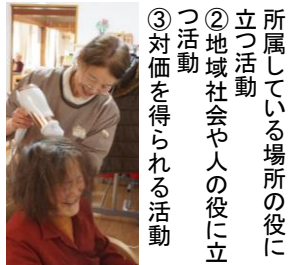
料理



薪割り・ご飯炊き



パン作り



- ① 家や施設などの自分が所属している場所の役に立つ活動
- ② 地域社会や人の役に立つ活動
- ③ 対価を得られる活動

● ケアスタ中町の3種類の活動
年をとって、体が弱ってくると、受け身になり自分から動くことが少なくなり、その結果、支えられ自分の役割がなくなったり喪失感で、自尊心が削られていきます。その回復のために、利用者ができることで、地域社会とのつながりや、役割を取り戻そうと考えています。

これまでの介護の課題
認知症や要介護になると、いろいろなことを制限されて、やってもらうことが当たり前になつてきます。“何かあつては困る”と活動するリスクは全て排除されてしまいます。これは、本当に望んだ姿なのでしょう。ただ安全にいけるためだったら、部屋にいてじっとしているしかありません。
つながり、出来ることもあります！
● “できないこと”を“してあげる”のは、単なる“お世話”
● “できること”に焦点を当てて、その人らしく暮らせるようにするのが「介護」
**支えられる側から
支える側へ**



ご利用に関するご相談はLINE
またはお電話でお問合せ下さい！
☎0228-24-8456